

平成29年度 病害虫発生予報 第5号

平成29年8月25日
栃木県農業環境指導センター

○いちご炭疽病の発生に注意しましょう！ ○大豆・野菜・花き類のハスモンヨトウの増加が懸念されます。

予想期間 8月下旬～9月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 大豆 ベと病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・現在の発生量が多い(平年比438%：ほ場率、平年比466%：株率)。(+)
・向こう1か月の降水量は平年並～多い見込み。(±～+)
・品種「里のほほえみ」はべと病に罹病しやすい。(+)
- (3) 対 策 ・開花期から子実肥大期にランマンフロアブル、ベトファイター顆粒水和剤を散布する。
- (4) 備 考 ・[植物防疫ニュースNo.5](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 大豆 吸実性カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・現在の発生量が多い(平年比284%：ほ場率、平年比250%：株率)。(+)
・向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・開花期の15日後から、トレボン乳剤、スミチオン乳剤等を10～14日間隔で散布する。なお、子実肥大中期(9月上中旬)の吸汁害は、減収および品質低下が大きいため9月も防除を行う。

3 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・現在の発生ほ場率は平年並(平年比76%：ほ場率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は平年並～高く、日照時間は平年並～少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・水滴の飛散等で伝染するので、頭上かん水は避け、できるだけ水の跳ね返りのないかん水を行う。
・風通しを良くするとともに、茎葉のぬれ時間が長くないよう、かん水はできるだけ晴天日の午前中に行い、曇雨天日や夕方のかん水を控える。
・発病してからの防除は困難なので、予防を主体にアントラコール顆粒水和剤等を散布する。
・発病株や感染が疑われる株は早急に取り除き、ほ場外で適切に処分し、速やかにサンリット水和剤等を散布する。
- (4) 備 考 ・[植物防疫ニュースNo.8](#)、[薬剤感受性検定結果\(QoI剤\)](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比35%：ほ場率、平年比17%：発生株率)。(－)
・向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・雑草はハダニ類の発生源となるため、除草を徹底する。
・苗による本ぼへの持ち込みを防ぐため、育苗での防除を適正に行う。
・育苗中は気門封鎖剤等を活用し、本ぼ定植後に使用可能な有効薬剤を温存する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比68%：ほ場率、平年比40%：発生株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込み。(±～+)

- (3) 対策 ・ 薬剤がかかりやすい生育初期からの防除を行う。
 ・ 葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に気門封鎖剤やスターマイトフロアブル等を散布する。
- (4) 備考 ・ [薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

6 大豆・野菜類（いちご・なす等）・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠 ・ 8月第4半旬までのフェロモントラップによる誘殺数はやや多い。(+)
 ・ 向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込み。(±～+)
- (3) 対策 ・ 定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
 ・ ハスモンヨトウの幼虫は、齢期が進むと被害が大きくなる上に、薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。
- (4) 備考 ・ [植物防疫ニュースNo.6](#)を当センターHPに掲載中。

7 大豆・野菜類（いちご・なす等）・花き類 タバコガ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根拠 ・ 8月第4半旬までのフェロモントラップによる誘殺数はやや少ない。(－)
 ・ 向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込み。(±～+)
- (3) 対策 ・ 植物組織内部に食入すると薬剤防除が困難になるため、発生初期に防除する。
 ・ 施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。
 ・ 被害果実はほ場外に持ち出して適切に処分する。
- (4) 備考 ・ 果実や花、頂芽などに寄生するため、防除が遅れると被害が大きくなる。寄生されやすい部位をこまめに観察する。

8 その他の病害虫

		現況	発生予想			現況	発生予想
水稲	穂いもち	平年並	やや多	いちご	アブラムシ類	平年並	平年並
	紋枯病	平年並	やや多		なす	うどんこ病	やや多
いちご	うどんこ病	やや少	平年並		アザミウマ類	やや少	平年並

☆水稲 穂いもちの発生に注意しましょう！

- ・ 7月下旬から続く降雨と日照不足により、穂いもちの発生が懸念されます。農薬の使用時期（収穫までの日数）、回数等を注意深く確認し、防除可能な場合は薬剤散布を行いましょう。

[植物防疫ニュースNo.7](#)、[薬剤感受性検定結果\(QoI剤\)](#)を当センターHPに掲載中。

☆いちご本ぼへの病害虫持ち込みに注意しましょう！

- ・ 病害虫を本ぼに持ち込まないよう十分に注意し、健全株を定植しましょう。

☆農薬は適正に管理し、正しく使いましょう！

☆同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

☆マルハナバチなどを導入している場合は、安全日数を目安に薬剤を選択しましょう。

☆短期暴露評価の導入に伴う農薬の使用方法の変更にご注意下さい！

1か月気象予報（予報期間8月26日から9月25日 8月24日気象庁発表）

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または高い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率40%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

	低い（少ない）確率	平年並の確率	高い（多い）確率
○気温	20%	40%	40%
○降水量	20%	40%	40%
○日照時間	40%	40%	20%

詳しくは農業環境指導センター(Tel 028-626-3086)までお問い合わせください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>)でもご覧になれます。